

10 自由時間の終わりを分かりやすく伝えるための支援

自由時間に中庭で遊んでいる子どもに「もう終わり、教室に帰ろう」とことばで指示した。すると突然地面に寝転がり声をあげて泣き出した。「ちょっと待ってね」「あとでしょうね」といった時間に関する指示の理解が難しい子どもである。

(1) 支援の過程

① 支援の考え方

自由時間の組み立ても、一人ひとりの苦手さに合わせて「何をどのくらいするのか」「いつ終わるのか」「終わったら何をするのか」という情報を分かりやすく伝えることが大切です。指導初期には、どんな遊びもその中身より、どうやって始めと終わりを伝えるかということが課題になってくるとおもわれます。

② 支援の展開

1) 始まりを伝える

いつ遊んだらよいか分からない

↓

- ・個別の部分スケジュールを設定し、お手伝いや学習が終わると好きな「遊び」が選択できるようにした

↓

自分でスケジュールを確認し、自由時間の遊びを始めることができた

2) 終わりを伝える

「いつまで」を表す手がかりを目で見える形で提示する

↓

- ・時計は関心があったが、数字を読むだけで、時間の長さの手がかりとして使えなかった
- ・タイマーのアラームがなると「終わり」を理解できたが、「いつまで」という見通しを持てなかった

↓

タイマーのひとつであるタイムログを使用すると「いつまで」という時間の長さを、量として理解することができた

③ 結果



タイムログ（20分計）は時間をセットすると赤い発光ダイオードが残り時間を1分刻みで表示します。スケジュールに提示した「遊び」カードの色とタイムログのボタンの色（赤20分、黄15分、緑10分、青5分）を対応して、一人でセットすることができました。次にする活動の写真カードなどをはって「タイマーがなったら終わり、次はこれをするよ」という見通しを持って遊べるようになりました。

(2) 支援のポイント

【時間を分かりやすく伝える工夫】：「どれだけ遊べるか」を知らせるために「あと少し」「もうちょっと」のようなことばでなく、目で見えるものを使うようにします。

数秒なら「立てた指を折り曲げる」、「紙に書いた数字をめくってカウントダウン」
数分間なら「タイマーの使用」、時刻なら「時計の針や数字と本物の時計のマッチング」

【タイマーの使い方】

今からする活動の残り時間を知らせるための使い方と、次の活動までの時間を知らせるための使い方があります。また、アラームがなると「終わり」というルールを守ることが大切です。

この資料は徳島県立国府養護学校の喜馬久典先生から 2002 年 5 月にご提供頂きました。

出展元：「自閉症児の支援の在り方～TEACCHのシステムから学ぶ～」

徳島県教育委員会障害児教育指導室（2002.3 発行）